



みらい

令和4年度 第4号

令和5年3月発行

五十嵐小学校学校運営協議会



SINCE 1973

令和4年度(2022年度)に新潟市の学校はすべてコミュニティ・スクール(=CS:学校運営協議会制度)を導入しました。学校運営協議会を設置し、地域と学校が支え合い、ともに成長し、活性化していく「地域とともにある学校」づくりを進めていきます。

モデル校としてスタートした令和3年度から続き、CS2年目となった今年度も、保護者そして地域の皆様からご協力いただきありがとうございます。

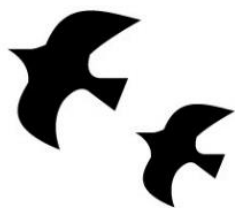
第4回学校運営協議会が開催されました(令和5年2月15日(水)五十嵐小学校にて)

- 議事
- 1 年度末学校評価の成果と課題について
 - 2 次年度教育ビジョンについて
 - 3 次年度教育ビジョンの実現に向けた具体的手立ての検討(3つの分科会で検討)
- 【上記の協議内容はすべて承認されました。詳細については裏面をご覧ください。】
- 諸連絡
- 1 次年度の年間予定計画について
 - 2 地域と学校パートナーシップ事業について(活動報告)
 - 3 いからしフレンドスクール事業について(活動報告)

日諸会長あいさつ

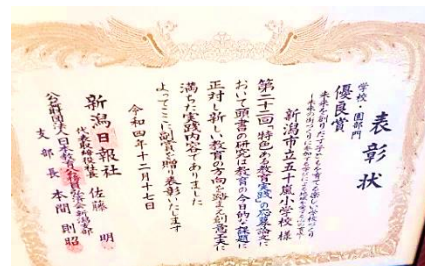
2年目の最後の学校運営協議会(CS)、一つの区切りです。CS1年目、本当に何がなんだかよく分からず、地域とともにある学校作り、何をやるんだろうと難しく考えていました。しかし、地域と学校は今までも支え合ってきています。この後もこの支え合いを途切れることなく継続できるよう練り上げていこうと考え始めたところです。プラスで捉えていけばよかったんだと思います。10月にCSと学校で共催した「全校なかよし遠足」がすごくよかった。これを持続・継続できるよう長いスパンで見たいければ、地域と学校の支え合いも続けていける、そんな風に考えています。

そしてCSのメンバー、素晴らしい人材が揃っていて、こうして皆さんと交流できてよかったと2年間を振り返っております。



諸橋校長あいさつ

新潟日報社主催の「特色ある教育実践」応募論文に五十嵐小学校が入選しました。その内容は皆様からご協力をいただいた



縦割り遠足を中心とした学校づくりの取組です。ありがとうございます。まだまだ発展性のある全校遠足です。子どもと創る、職員と創る、地域の皆様と創るというものを、次年度以降、核に据えていきたいです。みんなで創ることの楽しさが一番だと思っています。

今日は次年度に向けて、この2年間職員みんなで創ってきたものを評価いただいて、次年度、それをベースにもう一歩進めるためのCSです。よろしくお願いたします。

大野副会長(PTA会長)あいさつ

最初この学校運営協議会に来た時、本当に何も分からずという感じだったのですが、年間通して参加して、五十嵐小学校の周りにはいろいろな地域の方々がいらっしゃって、子どもたちのために動かれていることがよく分かりました。あと、自分の子育てに対して、どういう風に声掛けしていこうか、子どものやる気や自己肯定感をどう育てていこうかと考える良い機会でした。PTAとしても、子どもたちのより良い学校生活のために協力したいですし、また、ここで勉強したことを保護者の皆さんに伝えていきたいと思った会です。また来年度もよろしくお願いたします。



1 年度末学校評価の成果と課題について

渡邊教務主任より、12月から1月にかけて、子どもたちと保護者そして職員に実施したアンケート結果をまとめた「後期・学校評価アンケート結果のお知らせ」（保護者の皆様へ令和5年2月配付）についての説明があり、それを受けて3つのプロジェクト主任から今年度の成果と課題についての説明がありました。主な内容は以下の通りです。



思いやりプロジェクト 「互いに助け合い、 認め合う子ども」

日常生活で児童の行動を見ると、お互いに支え合っている様子が見られるようになってきている。来年度はこの学習スキルの日常化を目指す。
「いつでも、どこでも、誰にでも」の思いやりがあふれると良いです。



学びプロジェクト 「共に考え、 学びを深める子ども」

教科担任制→学年全体で子どもたちを見ることで誰もが安心して学習できている。
学びが連続するようにアウトプットを重点として、6年間を見通した学習の仕方、五十嵐スタンダードを作り実践していく。



かかわりプロジェクト 「自他を大切にし、 進んでかかわる子ども」

集団のために自分で決めたことを実行できたと感じる児童が多かった。（前期：運動会、後期：全校遠足など）
子どもたちの良いところをほめ、子どもたちの良さを学校全体で引き出していきたい。



諸橋校長より 今年度、子どもの自己有用感が上がった。ここが大きな成果と言える。何よりも、子どもたちが自分自身に自信を持てるという部分が大きく向上しているのが大事と言える状況にある。

2 次年度教育ビジョンについて

次年度の教育ビジョンについて、渡邊教頭より「教育ビジョンが新しくなって次年度で3年目を迎える。数値の上でも子どもたちの姿を見ている手応えを感じている。次年度もしなやかなところを基盤とし、〈つながる力、表す力、考える力〉を三本柱として〈楽しい学校〉の実現に向けて職員一丸となって取り組んでいく。」と説明がありました。また、「CS委員を中心とした地域の諸団体の皆様のお力を借りて、共に力を合わせながらやっていきたい。」との話がありました。

3 次年度教育ビジョンの実現に向けた具体的手立ての検討（3つの分科会で検討）

CS委員がそれぞれ3つのプロジェクト部会に分かれて検討しました。非常に良いアイデアがたくさん出たので、来年度のビジョンの完成、そして、実際の教育活動の中に活かしていきます。



思いやりプロジェクト

- ・学年に応じて、相手がどう思っているのか、相手の表情、声色、仕草というものから、相手の気持ちを考える力をつけた方がいい。それを踏まえて、じゃあ自分は何をするのかという行動力を、このSEL（社会的・情動的学習）というものを軸にして、学んでいくのが大事ではないか。
- ・あいさつ、言葉、返事、あと、時間を守るマナーも大事なことで、家庭との連携をとりながら、そういうことも学校で子どもたちと学んでいきたい。
- ・学校で、何ができるかというのを考えながら、令和5年度に繋げていきたい。



学びプロジェクト

- ・1～6年生まで、今年度やってきたことを、CS委員の皆様にご存知いただき、その中で地域にはたくさん先生がいる、もっと教えてもらいたいことがたくさんあることを再確認した。
- ・幼・保・こ・小・中の繋がりの復活
- ・五十嵐浜についてゴミの学習の他に、動植物について学ぶのはどうか。
- ・地域の消防団の取組について学ぶ。また中学校区の防災訓練で子どもたちの参加を広げられたら良い（防災教育と絡めて）。
- ・学年で様々な取組をしてきたので、それが学校全体で1本に繋がると良い。



かかわりプロジェクト

- ・全校遠足は子どもたちにとって貴重な経験である。また五十嵐の地域愛を育てる機会である。異学年交流という素晴らしい交流に地域が関われる行事なので、今後も続けてほしい。
- ・全校遠足で大人と子どもが関わられて、かつ実現の可能性がより高いものはなんだろう？
→縦割班で何か1つのものを作り上げる創作活動はどうか？
→創作活動にも保護者、地域の方に一緒に入ってもらって、子どもたちと一緒に活動してもらったら良いのでは？
- ・全校遠足でイベント、お祭りや遊びのブースを地域と一緒にやれたら楽しい・・・等々